東京ジャーミイ金曜日のホトバ

2009 年 4 月 3 日

自らを省みること

親愛なるムスリムの皆様。アッラーは、創造されたすべての人々にそれぞれの寿命を定められました。知性という恵みを与えられた人間は、思春期以降死ぬまで、行なったことや行なうべきなのに軽視してしまい行なわなかったことの責任を問われます。しかし人を無援のまま放っておかれることはなく、その知性を導くために預言者たちと啓典を送られました。ここで人に与えられている義務は、その人生と行なってきたことについて考え、評価することです。私は何であったのか、何になったのか。最後はどうなるのか。

人は最初は一つの細胞であり、その後胎児となり、それからこの世に生まれ、世話を必要とする子供であり、その後若者となり、それから成熟した大人になります。十分な力を持ち、望むままに振舞う力を持つのです。しかしこれはそのまま続くわけではありません。昇り坂には必ず下り坂もあるように、若さの後には老いがあります。それに続いて死が訪れることも確かですが、それがいつ身に起こるかを知ることはできません。この観点から、いつでも死が訪れているかのように備えのできた状態である必要があります。

親愛なるムスリムの皆様。私たちは自分自身でまず自らを省みる必要があります。確実に起こる出来事である死と、最後の審判のことを忘れることなく、自分たちの行動もこの真実をわきまえて方向付けなければならないのです。早めることもあとに延ばすこともできない死が私たちの襟首を捉える前に、「死や来世への備えができているだろうか」と考える必要があります。去年私たちと共にいて、今年はもういない多くの人たちがいます。私たちは来年を迎えることができるでしょうか？そのような保障はないのである以上、次のように考えてみなければならないのです。「今、魂をお返しすることになったとすれば、これらの行為でアッラーの御前にまみえることはできるだろうか」従って、私たちは皆、息を引き取る前に私たち自身を総括し、自我を点検するべきなのです。なぜなら私たちは自分の行ったことについてアッラーの前で勘定を問われるのです。実際預言者ムハンマドは「最後の審判の日、人は全ての行為について尋問にかけられることなくしてマフシェル（死後、復活した人が集められる場）を離れることはないだろう」と教えられました。ウマルさまも、「尋問にかけられる前に自らを点検してください」と警告していました。

愛なるムスリムの皆様。この１年で、私たち自身、家族の人たち、親戚、隣人、そして社会のためにどのようなよいことをしたでしょうか？あるいは私たち自身、社会、人々にどのような害を与えてしまったでしょうか。善い行いを増やし、過ちをただすためにこのような評価付けを行なう必要があります。これらすべてを評価付けし、教えが禁じている罪を犯したのであれば悔悟しなければなりません。そしてそれらの罪を放棄しなければいけないのです。アッラーに対するつとめや崇拝行為に不足があれば、それらを補わなければなりません。限定されたものである残された日々を、アッラーがハラーム、禁じられたものとされたことによってではなく、アッラーがお慶びくださる仕事や崇拝行為によって過ごすよう努めましょう。

ホトバを、集合章第１８節の訳によって締めくくります。「あなたがた信仰する者よ、アッラーを畏れなさい。明日のために何をしたか、それぞれ考えなさい。そしてアッラーを畏れなさい。本当にアッラーは、あなたがたの行うことに通暁なされる。